

メル校

最近、メルボルン日本人学校での日々がつい昨日の出来事のように感じるようになった。思えば、僕の二年半のメル校生活からもう8ヶ月も経ってしまった。時間の流れというものは早いと本当に実感できる。受験生だった僕は、無事に2月に受験を終え、志望校に受かることができた。日本での8ヶ月より、メル校での2年半の日々の積み重ねのおかげだと思う。

去年の夏休み。まだ僕が日本の東京に帰ってきてから1ヶ月の時、僕より先に日本に帰国してしまった同級生の男子2人と再会することができた。メルボルンでメル校の人達と別れ、その1ヶ月後に日本で元メル校生に出会うことがとても不思議に感じたが、このようなことができたのも、「メル校」という絆があるからだと思う。また彼らと再会した時に、メル校での思い出が脳裏に蘇ってきた。G6の時の卒業式、メル校デーや体育祭、修学旅行などの行事。朝学活、昼休み、遊ぼうデーなどの日常。このどれもが夢にあふれていて、メル校での学校生活を素晴らしいものにしてくれていた。だけど一番の思い出というのは、友達との何気ない会話だと思う。その会話の中に全てが詰まっていただろう。

メル校のよさは自由な校風、そして少人数ということだろう。自由の点では、私服通学なので自分の好きな服で学校に行くことができること。また委員会などで自分たちが出した企画をしっかりと学校生活に反映してくれることが挙げられる。この自由な校風が、生徒たちの個性を最大に発揮させてくれて、誰とでも仲良くなれる環境を作り出してくれている。少人数の点では、友達と協力をしないと行事を成し遂げられないので、友達との絆を深めやすく、他学年との壁が低いという良い点がある。さらに先生方の目が行き届きやすいので、質問とかがしやすく、先生方とも仲良くなれる。これは日本の学校ではしにくいことだ。

友情が第一のメル校は僕にとって理想的な学校だった。僕自身、メル校の校風に何度も助けられ、自分を変えることができた。メル校に行っていなかったら今の僕はなかったということだ。この学校で中学校生活を過ごし、一生の友をつくることができて本当に良かった。またいつかメルボルンに遊びに行こうと思う。